

ヤマラッキョウ種内分類群の認識について



自然・環境再生研究部 生物資源研究グループ

藤井 俊夫

各種図鑑の記述の混乱

草原から湿地まで多様な環境に生育するヤマラッキョウについて、各種図鑑の記述を調べると様々な形態的特徴を持ち、種の認識について混乱していることがわかった。

自生地集団の調査

兵庫県内の様々な環境に生育するヤマラッキョウ集団の調査を行った。①海岸の岩場、②溜池の土手、③内陸の岩場、④水田の周辺、⑤湿地の各生育環境からヤマラッキョウのサンプルを採集し、あわせて植生調査を行った。

形態形質の観察

葉の断面構造を中心に、花の形態や倍数性、DNAなどを今後、研究する予定であるが、葉の断面構造は集団ごとに安定しており、現在、以下の5系統を認識している。

- ①三角形で、中実・中空。
- ②扁平で中実、幅1-3mm。
- ③V字型、幅3-5mm。
- ④V字型、幅2-3mm。
- ⑤矢羽型、中空。



乾燥した岩場に生える
(葉が扁平。幅1-2mm)



溜池の土手に生える
(葉が三角形。3-5mm)



湿った岩場に生える
(葉がV字型3-5mm)



湿地に生える
(葉が矢羽根型・中空。2-3mm)